

教養教育としての学生相互学習の試み

—「学科合同まなび報告会」の取り組み—

原田 信之¹⁾*・福岡 悦子¹⁾・久保田 トミ子²⁾・山内 圭¹⁾・渡部昌史³⁾

新見公立大学・短期大学教養教育委員会

(2012年11月28日受理)

新見公立大学・新見公立短期大学教養教育委員会では、本学3学科(看護学科・幼児教育学科・地域福祉学科)の学生が、それぞれの1年間の「学び」をお互いに「学びあう」ことを目的として1年次の終わりに「学科合同まなび報告会」を実施する取り組みを企画した。2010年度は試行実施、2011年度より本格的に実施し、報告会後に参加学生へ「報告会」での学びについての質問に自由に記述してもらったアンケートを行った。2011年度は1年次終期に報告会を実施し、2012年度は新入生対象に報告会を行った。全アンケートを学科別に分析した結果、学習成果があったという記述が大半を占めた。1年次終期の学生アンケートからは、1年間の自分の成長を確実に感じ2年次の学びへの意欲を持ったことを読み取ることができ、新入生へのアンケートからは、目標がより明確になりモチベーションのアップにつながったことを読み取ることができた。大学・短大として教養教育を充実させるため、学科をまたいだ学生相互学習の試みを今後も続けてゆくことを目指す。

(キーワード)看護学科, 幼児教育学科, 地域福祉学科, 学生相互学習, 教養教育

はじめに

新見公立大学・新見公立短期大学では、開学時より教養教育の充実を心掛け、専門知識に加え、幅広い教養を持つ学生を育てることを目標としてきた。本学は、公立の阿新広域事務組合立新見女子短期大学として1980年(昭和55)4月に開学し、学科増設・校名変更・法人化等を経て、公立大学法人新見公立大学(2010年4月開学。看護学部看護学科)および新見公立短期大学(幼児教育学科・地域福祉学科・地域看護学専攻科。看護学科は四大に移行し、地域看護学専攻科は2012年度末で閉学)として現在に至っている。本学では、教養教育を充実させるために、各学科においても様々な試みが行われている。例えば看護学部看護学科では、教養教育科目や初年次教育の充実をはかることを目指してカリキュラムを作成し、これまでの3年課程短期大学教育時代にはなかった新しい科目として「基礎ゼミナール」を開講し、近年注目されているテュートリアル形式の導入を試みている¹⁾。大学・短期大学全体としては、2003年(平成15)より各学科の教養関連科目を担当する教員を含む教養教育委員会を設置し、教養教育の充実に向けてきた。新たな試みとして、2011年度(平成23)には、本学教員が各自の授業でどのような読み書き教育を行っているかを将来構想委員会と教

養教育委員会が合同で調査して結果をまとめ、本学の教育で活用してゆくこととなった²⁾。

本稿は、本学3学科(看護学科・幼児教育学科・地域福祉学科)の学生が、それぞれの1年間の「学び」をお互いに「学びあう」ことを目的として実施した「学科合同まなび報告会」の概要および学生から回収したアンケートの分析結果を報告することを目的とする。

I 「学科合同まなび報告会」の概要

1. 2010年度「学科合同まなび報告会」

開催日時：2011年1月26日(水)

午前9時10分～10時30分

開催場所：3号館合同講義室

9:00 報告関係者集合

9:10 開会

9:10～9:15 趣旨説明(教養教育委員会委員長)

9:15～9:35 地域福祉学科の学び

進行係：1名, タイムキーパー：1名

報告：2名「コミュニケーションについて」

2名「介護を好きになる5つの項目」

9:35～9:55 幼児教育学科の学び

進行係：1名, タイムキーパー：1名

*連絡先：原田信之 新見公立大学 看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

1) 新見公立大学看護学部 2) 新見公立短期大学地域福祉学科 3) 新見公立短期大学幼児教育学科

- 報告：2名「幼児教育学科の1年間の学び」
9:55～10:15 看護学科の学び
進行係：1名，タイムキーパー：1名
報告：1名「バリアフリー体験」
1名「災害看護実習」
1名「採血」
1名「基礎看護学Ⅱ実習」
10:15～10:30 アンケート記入
- 1名「解剖見学」
1名「病院と施設実習」
1名「この1年間で学んだこと」
14:10～14:30 アンケート記入

2. 2011年度「学科合同学び報告会」

開催日時：2012年1月18日(水)4限(14:40～16:10)

開催場所：3号館合同講義室

- 14:40 集合(1年次生全員)
14:45 開会
14:45～14:50 趣旨説明(教養教育委員会委員長)
14:50～15:10 地域福祉学科の学び
進行係：2名，タイムキーパー：2名
報告：2名「利用者に接する実習生の言葉づかい」
2名「食事介助の難しさ」
15:10～15:30 幼児教育学科の学び
進行係：1名，タイムキーパー：1名
報告：4名「幼児教育学科の1年間の学びと
今後に向けて」
15:30～15:50 看護学科の学び
進行係：1名，タイムキーパー：1名
報告：1名「病院実習」
1名「解剖見学」
1名「病院と施設実習」
1名「この1年間で学んだこと」
15:50～16:10 アンケート記入

3. 2012年度「学科合同学び報告会」

開催日時：2012年4月25日(水)3限(13:00～14:30)

開催場所：3号館合同講義室

- 13:00 集合(1年次生全員)
13:05 開会
13:05～13:10 趣旨説明(教養教育委員会委員長)
13:10～13:30 地域福祉学科の学び
進行係：2名，タイムキーパー：2名
報告：2名「利用者に接する実習生の言葉づかい」
2名「食事介助の難しさ」
13:30～13:50 幼児教育学科の学び
進行係：1名，タイムキーパー：1名
報告：4名「幼児教育学科の1年間の学びと
今後に向けて」
13:50～14:10 看護学科の学び
進行係：1名，タイムキーパー：1名
報告：1名「病院実習」

II 調査目的

本学3学科(看護学科・幼児教育学科・地域福祉学科)の学生が、それぞれの1年間の「学び」を相互に「学びあう」ことを目的として実施した「学科合同学び報告会」をとおしてどのような学びをしたかについて、学生から回収したアンケートを分析し、その結果を報告することを目的とする。

III 調査方法

1. 調査対象：本学3学科1年次生対象(但し、欠席者を除く)。
2. 調査方法：報告会の最初にアンケート調査実施の目的を説明し、協力を依頼した。3学科の報告が終了した後、アンケートを記入してもらい、当日回収した。
3. 調査期日：2012年1月18日(1年間の学びをほぼ終えた時期の1年生対象)
2012年4月25日(新入生対象。報告内容は1月18日と同じ)
4. 調査項目：自由記述形式。学科名を選択してもらい、無記名とした。質問項目は、以下の4点。
 - 1)他学科の報告を聞いて学んだこと
 - 2)自分の学科の学びについて改めて気付いたこと
 - 3)学科をまたいで学びあう今回のような企画についてどう思いますか
 - 4)全体の感想
5. 分析方法
学生が記入した内容を、学科別にまとめ、分析した。まず2012年度(新入生対象)アンケートの内容を学科別に分析し、次に2012年度(新入生対象)と2011年度(1年間の学びをほぼ終えた時期の1年生対象)のアンケートの内容を比較して考察を加えた。分析の信頼性と妥当性を高めるために研究者間で検討を重ねた。
6. 倫理的配慮
アンケートをもとに報告書を作成する予定にしていることを口頭で説明するとともに、アンケート用紙にもその旨を記述した。アンケート用紙の提出をもって同意が得られたものとした。

IV 結果

1. 回答者の概要

2011年度の報告会アンケートでは、「報告会」での学びについての質問に自由に記述してもらい形をとり、看護学科全64名中47名(回答率73.4%)、幼児教育学科全54名中17名(回答率31.5%)、地域福祉学科全52名中36名(回答率69.2%)、所属不明1名から回答が集まった(3学科平均回答率59.4%)。

2012年度の報告会アンケートでも、「報告会」での学びについての質問に自由に記述してもらい形をとり、看護学科全64名中63名(回答率98.4%)、幼児教育学科全54名中54名(回答率100%)、地域福祉学科全50名中49名(回答率98.0%)から回答が集まった(3学科平均回答率98.8%)。

2. 看護学科(2012年度アンケート結果)

1)他学科の報告を聞いて学んだこと

まずは、3学科とも対人職養成学科であることにあらためて気付いているコメントが多数見られた。その共通点から、「子ども、お年寄り、患者とそれぞれ対象となる人は違うけれど、相手に合わせた対応をすること、相手が成長、よりよく生活できるようにすることが大切だということがわかった」「どの学科も対人援助職ということで、コミュニケーションの大切さを感じた」「どの学科も人の役に立つ仕事であることを強く感じた」「人を相手にする仕事なので正解は1つではない」などのコメントが見られた。また、言葉づかいの選択、介護食について、子どもとの接し方などの、看護に通じるもの、看護に生かせることに言及するコメントも多数見られた。「看護の現場ではいろんな年齢の人と関わるのでとても参考になった」というコメントもあった。それから、「職種は違うが、連携して取り組むこともあり、お互いに仕事内容など、しっかり理解し合っていないといけないと思った」のように他職種との連携の大切さについて述べたコメント、さらに「在学中に、様々な場面で学科や学年をこえて交流して、たくさん知識を取り入れていくことが大切だとわかった」とのコメントも見られ、在学中の他学科との交流が、卒業後の他職種との連携に発展する可能性の萌芽が見てとれた。また、「どの学科も、失敗や反省を繰り返して、より質の高い実践に向かっていくのだということがわかり、不安が取り除かれた」という入学直後の新入生らしいコメントも見られた。

2)自分の学科の学びについて改めて気付いたこと

学生たちは、看護が人の命と向き合う職業であることをあらためて感じ、医療人としての使命を実感したようである。患者のことを中心に考えることの大切さを感じ、

患者のために奉仕するつもりであることの必要性を感じたことがうかがえる。

どの学科の報告にもコミュニケーションに関するものが含まれていたが、看護では、患者とのコミュニケーションの取り方の大切さを実感したようである。また、コミュニケーションにより患者との距離を縮め信頼関係を築くことができることも学んでいた。コミュニケーションでは、いわゆる「世間話」も大事であることも2年生の話により分かったようである。

解剖見学に関する報告が印象的だったようで、「献体をしてくれる人がいるからこそ私たちは学べる」「特に解剖学の話が印象的で、自分も夏休みの実習に参加してみたいと思った」「解剖見学にも参加してみたいと思っていたけど、ご遺体であっても人は人、決して軽い気持ちで参加してはいけないと思った」などのコメントが見られた。

また、実習については、「援助の目的、手段、配慮を確認することが大切」「実習はミスは反省も多いがそこから学ぶことも多い」「患者を中心に考えることが大切であることがわかった」などのコメントがあった。

日常の学習態度に関するコメントとしては、「自己学習の習慣をつける大切さを感じた」「様々なことに臨機応変に対応することが必要」「自分から積極的に学んでいくことが大切」「常に向上心、問題意識を持って生活していかなければならない」「時間の使い方を見直したい」などが書かれていた。

また、教養(教育)に関するものとしては、「教養は人間として成長するために必要」「1年生のうちにある教養科目がとても大切であることが分かった」「看護の専門科目だけでなく、教養科目も必要である」「教養も頑張りたい」とのコメントがあった。

そして、「専門的な用語も徐々に覚えていきたい」や「自分の1年後のあるべき姿が見られた」など、新1年生の今後の学習成果を期待させるようなコメントもいくつかあった。また、就職してからも学び続けること(生涯学習)の大切さも実感していたようである。

3)学科をまたいで学びあう今回のような企画についてどう思いますか

どの学科も対人職養成を目指すため、共通点を見出し、学びを得て有意義であったことを指摘するコメントが大多数であった。また、「お互いの刺激になってよい」などのコメントも見られた。また、学科の相違点に気付く場合もあったようである。少数意見ではあったが、「他学科の先輩の話聞くより、自分の学科の先輩の話聞く方がためになると思った」とのコメントも書かれていた。

しかしながら、概ね「この大学特有だと思う」「おもしろい」「自分の学科の話だけでは気付けないような発見が

たくさんあった」「得られるものが多かった」「広い視野を持つためにとっても有意義な時間」など肯定的な意見であった。

そして、「話を聞くだけではなく、話し合いを持つ必要がある」「もっと関われる企画を増やしてほしい」「他学科の人とも関わっていききたい」など、さらなる交流を求める意見も見られた。

4)全体の感想

全体の感想としては、「先輩からの話はとてもよいアドバイスになる」「他学科の報告を聞いて学べることも多い」というようなコメントが多かった。また、先輩たちの報告を聞いて大いに刺激になったようで、「これから頑張っていこうと思う」「これから主体的に学習していこうと思った」「もっと勉強しなくてはいけないと思った」「毎日を無駄に過ごさず、充実させたい」「1年たった自分もああいう風になりたい」「人間性を高めていこうと思った」等のコメントも多かった。また、これからの大学生活への参考になったとのコメントも見られた。

ここでも教養教育の重要性について触れた「1年の後期は専門的なことが入ってくるので、前期のうちにしっかり教養を学びたい」「専門分野だけでなく教養分野を学ぶことも大切だということを知ることができた」などの気付きを書いたコメントも見られた。

また、「このような発表会では、パワーポイントがとても効果的でわかりやすいということがわかった」とプレゼンテーションの方法論についての学びも見られた。また、「他学科交流だけでなく、他学年交流もしたい」との希望も述べられていた。

そして、「他学科も素敵だと思いましたが、やはり自分の学科が一番興味があるなど強く感じた」とのコメントも少しあった。

3. 幼児教育学科(2012年度アンケート結果)

1)他学科の報告を聞いて学んだこと

幼児教育学科の学生は、他学科の報告を聞き、将来目指している職種が、同じ対人援助職で命を預かる責任ある仕事という点が3学科で共通していることを認識していた。同じ共通点をもっていることが分かり、今後お互いに高めていける存在となったようである。また、他学科の学生が夢に向かって頑張っている報告を聞き、自分たちも夢をつかむために努力しようという決意が回答からみられた。

各学科の報告別にみると、看護学科からの報告では、自分の力を過信してはいけない、問題に対して柔軟に対応することの重要性、自分が身をもって体験することの大切さ、自分のためではなく相手のためにする意識、普通に生活できることへの感謝の気持ち、患者さんへの援

助の目的・手段・配慮などの把握の大切さといったことを学んでいた。地域福祉学科の報告からは、言葉づかいの難しさ、コミュニケーションの取り方の難しさ、相手の気持ちを考えることの大切さ、1人1人にあった対応をすることの重要性、相手に対して尊敬の意をもつことの大事さなどを学んでいた。

2)自分の学科の学びについて改めて気付いたこと

幼児教育学科の先輩の報告を聞いた学生は、今後の学習においてやるべきことが明確になり、将来保育者になるという自覚をもって行動しようという思いを定めていた。また、保育者という職は、「子どもが好きだから」という理由だけで就くのは安易な考えであることを認識して、これから子どもについてより理解を深めていこうという心情の変化がみられた。その他にも保育者の存在の大きさ・責任の重さの認識、保護者との連携・信頼関係の構築の大切さ、子どもの可能性についての理解、子どもと関わる時の安全面や環境構成の重要性、指導案の行動目標・援助の方法・配慮などの大切さ、教養の重要性などといったことを学んでいた。

3)学科をまたいで学びあう今回のような企画についてどう思いますか

学科の垣根を越えた報告会は、幼児教育学科の学生にとって、とても刺激になったようである。アンケートの回答には、他学科の実習など身近な話が聞けたのは良かったと肯定的な意見が多かった。また、幼児教育学科の学生は今回の企画を通して、他学科への理解や他学科との共通点の認識など、他学科への興味・関心が生じる良い機会となったようである。要望としては、座学だけではなく実際に他学科の学生と話が出来る時間がほしい、自分の学科についての報告時間をもっと多く取ってほしいといった回答があった。

4)全体の感想

幼児教育学科の学生は、報告会を通して各学科の一所懸命さ、熱意を感じるとともに、他学科に対する新たな気付き、共感する点など今までとは違った視点をもつことができ、充実した報告会であったようである。また、発表した先輩の姿をみて、自分が先輩たちのように成長出来るのか不安になる一方で、報告会で得たことを今後生かし自分も頑張ろうという心境も得たようである。その他の回答として、知識を頭で理解することに加えて実践力の大切さ、疑問をつきつめることの大切さなどを感じ学んでいた。

4. 地域福祉学科(2012年度アンケート結果)

1)他学科の報告を聞いて学んだこと

「どの学科も人に関わる仕事であり、共感できる内容であった」「自分が想像していた以上のさまざまな考え方を聞くことができ、物事を多角的に捉え、考える大切さを学んだ」など、回答した49名の学生がすべて、表現は違うが学びが多かったことを記述している。さらに、「1年間の学びで先輩の成長している姿に接し、学ぶことの意義を感じた」「対象は幼児、高齢者、患者であれ、人と真剣に向き合う中で新たな自分を見出すことができることに気付いた」「実習などを通して自分の長所や短所を省みることによって成長できると思った」など実習を通して自己の成長につながることを実感しており、学習への動機づけが高まっている。

「多職種が連携するためには、他職種を理解し、情報交換することが大切であることを学んだ」など地域包括ケアが求められるなかで、貴重な学びをしている。

学科別の内容では、看護学科の報告からは、「自分のためではなく、患者さんのためにしなければならないということは、地域福祉学科でも大切な言葉だと思った」と記述している学生が、10名いた。このようにケアに共通する学びがあると同時に、「自分の学科では経験できないことを経験している」「利用者のために自分が精いっぱい努力しなければならないことを看護から学んだ」「解剖実習の学びから、ご遺体からでもその人の人生を感じるということを学んだ」など看護学科の報告から追体験して考えている。

幼児教育学科の報告からは、「子どもを注目させる指遊びに、引き付けられた」「子どもは遊びの中でいろいろな学びができることを知る事ができた」など遊びに関する記述をしている学生が9名いた。「指導案があることを初めて知った」「幼児の教育は、自分が想像していたものと全く違って、奥が深いと思った」など他学科の教育内容にも関心を示している。「子どもと高齢者は、正反対のものだと思っていたが、学んでいる内容の共通性を感じた」「地福と幼教は、楽しくしかも安全に配慮する必要があるなど共通している」など両学科の共通性に気付いている。

2) 自分の学科の学びについて改めて気付いたこと

地域福祉学科の先輩の報告から、「敬語を使うことが必ずしも正しい訳ではなく、その場に応じて対応することが大切だとわかった」と記述している学生が17名いた。さらに、「高齢者と関わるときの話し方を改めて考えようと思った」「敬語のことについては、よくわからないのでどのように判断すべきか、接し方についてもこれから学んでいきたいと思った」など先輩の報告を聞いて、自分自身で心準備をしていることがうかがえる。コミュニケーションに関する記述は、34件あり、利用者との信頼関係を築く上での重要性を認識している。「実習に行く前に利用

者との接し方やコミュニケーションの取り方を学んでおかなければならない」「高齢者は、人生の先輩であることを忘れたくない」など、この報告会が実習のオリエンテーションになっている。さらに、「言葉づかいについての矛盾は、座学だけでは学ぶことができない」「実習に行ってみると気付くことがたくさんある」「実習のときにしっかり学びたい」「教科書で学ぶより体験したほうがよく学べる」「不安を感じていたことが少しだけ解決できた」など実習に出る期待感や不安の解消になっている。

食事介助に関しても24件の記述があり、「食事は、単に栄養摂取だけでなく楽しみである」「利用者が食べたいと思えるような工夫が大切」「食事でも他職種とのチームワークが大切」など重要な気付きがある。介護職が日常生活の支援を業務とすることから、「ソフト食」「ミキサー食」「刻み食」など食事の形態に関する記述が、7件あった。いずれも先輩の報告に対して、「疑問に思ったことを調べてみるという意識がすごい」「まとめるのが上手」などの称賛をしており、「改めて介護について、しっかり学びたい」という学習の動機づけが高まっている。

3) 学科をまたいで学びあう今回のような企画についてどう思いますか

「同じ大学にいても他学科の人がどのようなことを学んでいるのか知らなかったので、とてもよい企画である」が18件、「他学科でも共通していることがあるということを実感できる貴重な機会であるので、これからも続けてほしい」が7件の回答であった。「学科をまたいで交流することは、お互いに情報交換ができ有益な学びができる」など、この企画に対する肯定的な回答が48名であった。否定的な回答はゼロで、1名がわからないと回答していた。さらに「他学科との交流があれば、これからの学生生活も楽しくなる」や「定期的に企画してほしい」「来年、発表してみたい」など意欲的な回答があった。

4) 全体の感想

「先輩の話を聞くことで、自分たちがこれからどのようなことをするのが分かり、不安が取り除かれた」、「これから実習を体験するので、報告会の内容が役に立つ」、「教師からの目線ではなく、先輩の発表ということで、自分たちと同じ目線だから共感する部分が多かった」と記述し、先輩から後輩へのオリエンテーションの役割を果たしている。さらに「これから自分が勉強していくことに対する期待が大きくなった」「新たな介護が見つけれそうな気がする」「自分の目指す職業に対するプライドを高く持つことができる」など夢や希望が膨らんでいる。「命と隣り合わせの職業だ」という意識をもつ「何事にも関心をもち、広く深く学べるよう努力したい」「もしかしたら来年、自分が発表することになるかもわからないので、勉

学に励みたい」「年1回だけではなく、複数回することもよい」などこの企画に対する学習の効果と期待感が記述されている。この結果から、教師の意図したものより大きい教育効果があったと評価できる。

V 考察 (2012年度と2011年度の比較)

1. 他学科の報告を聞いて学んだこと

2012年度では、「どの学科も対人援助職であり、コミュニケーションの大切さが分かった」「どの学科も人の役に立つ仕事であることを強く感じた」「在学中の他学科との交流が卒業後の他職種の連携に発展する可能性が見える」という記述が多かった。

2011年度では、「他学科の言葉づかいの発表は看護にも使うことができる、参考になった」という記述が多く、また「人と接することはどの学科も同じで、どのように接しているか学ぶことができた」「言葉づかいは学科に関係なく大切なこと」「患者さんを第一に考えて行動すること」「相手に合わせた言葉づかいは重要」「コミュニケーションの重要性」「敬語の大切さを学んだ」「常に問題意識を持ち、自分で調べることが大切」という記述も多かった。2011年度のアンケートからは自分たちが学んできたことを振り返った記述がみられ、新入学生の記述とは少し異なる。この部分は1年間の成長の足跡と考えることができよう。

2. 自分の学科の学びについて改めて気付いたこと

2012年度では、「看護が人の命と向き合う職業であることを改めて感じた」「患者とのコミュニケーションの取り方の大切さを実感した」「教養は人間として成長するために必要」などの学びがあったことがうかがえる。

2011年度では、「解剖の見学を改めて思いだし感動がよみがえった」「命の大切さや生命倫理、学問的知識を理解し身につけることの大切さを考えさせられた」「実習後自分たちで学びを深めているところがすごいと思った」「他の人の感想を聞いて自分も頑張ろうと思った」「看護師としての心構えを改めて考えさせられた」「患者さんとのコミュニケーションの大切さを改めて実感した」「エビデンスを確認することの大切さ」「今回の発表を聞いて、自分は1年前より成長していると感じた」「日々の積み重ねが重要」「もっと子どもについて知りたいと思った」「次回の実習に向けて頑張ろうと思った」「自分の視野を広げていきたいと思った」「子どもに対するイメージの変化」「何のためにおもちゃを作るのか改めて気付いた」などの記述から、反省や今後に向けた心構えや前向きさがうかがわれる。学生たちがこの企画の意味をはっきりと理解していることが見てとれる。

3. 学科をまたいで学びあう今回のような企画についてどう思いますか

2012年度では、「お互いの刺激になって良い」「学科の相違点について気付く」「この大学特有だと思う」「広い視野をもつためにとても有意義な時間であった」など肯定的な意見が多く、継続してほしいという気持ちが伝わってくる。

2011年度では、「どの学科も共通する部分があるので共有するためにも必要」「他学科の学びができてよかった」「自分たちの学びの振り返りができた」「他学科の学びを知ることで新しい発見があった」「自分たちが学んでいることを知ってもらえるのがよい」「地域福祉や幼児教育の学びも看護に共通する学びがある」「学年が進んでからもしてほしい」「1年生だけでなく、先輩方の意見も聞きたい」「幼児や看護は福祉と関係ないと思っていたが、思わぬところでつながりがあると知った」など、肯定的にとらえている表現が多い。

4. 全体の感想

2012年度では、「先輩からの話はとてもよいアドバイスになる、大いに刺激になる」「他学科の報告を聞いて学べることも多い」「専門分野だけでなく教養分野を学ぶことも大切であることを学んだ」「プレゼンテーションの方法論の学び」等の記述があった。

2011年度では、「どの学科も協力、チームワークが必要」「どの学科も共通する部分がたくさんあり、連携していくことが重要」「他学科のことを聞いて勉強になった」「3学科とも相手に対する接し方、コミュニケーション能力、気持ちを考える大切さを感じた」「相手の年齢などによって接し方が違うからこそ重要である」「それぞれの目標に向かって協力して学ぶことも大切だと思った」「今までの自分の学習態度を振り返り、自分が学んだものをもっと自分のものにしたかった」「グループなどに分かれてするともっと深まると思った」など、肯定的な記述が多かった。

以上のことから、入学したばかりの1年生および1年間の学びをほぼ終えた時期の1年生それぞれが、「学科合同学び報告会」を通して多くのことを学んだことがうかがえた。新入生へのアンケート内容(2012年度分)からは、先輩たちの発表を聞くことで、自分たちの目標がより明確になり、「頑張ろう」というモチベーションのアップにつながったことを読み取ることができた。また、1年間の学びをほぼ終えた時期の1年生へのアンケート内容(2011年度分)からは、多くの学生が1年間の自分の成長を確実に感じるとともに、次の1年間の学びへの意欲を持ったことを読み取ることができた。

学生の感想から、学生同士がお互いに学び合うことは、教員から学ぶ通常のスタイルとは変わって新鮮であり、新

しい気付きにつながっていることがうかがえた。学科をまたいだこのような取り組みは小規模の大学・短大であるからこそできる利点であると思われる。今後は学生たちの前向きな新しい意見をできるだけ導入し、さらなる教養教育の発展に寄与できるよう、委員一同取り組んでいきたいと考える。

文献

- 1) 原田信之：初年次教育におけるテュートリアル形式導入の試み—看護学部基礎科目「基礎ゼミナール」での実践—。新見公立大学紀要, 31, 183-189, 2010.
- 2) 福岡悦子・原田信之・久保田トミ子・吉村淳子・山内圭：教養教育としての読み書き教育の実践—新見公立大学・短期大学教員の取り組み—。新見公立大学紀要, 32, 175-179, 2011.

Attempts of Mutual Learning among Students in Different Departments

Implementation of Interdepartmental Reporting Sessions of Students' Learning

Nobuyuki HARADA, Etsuko FUKUOKA, Tomiko KUBOTA, Kiyoshi YAMAUCHI, Masashi WATANABE
Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

Liberal Arts Education Committee of Niimi College implemented interdepartmental reporting sessions of students' learning in the three departments (the departments of Nursing, Early Childhood Education, and Community Welfare of Niimi College) at the end of academic year. After a trial session in the academic year of 2010, we had an actual session at the end of academic year of 2011. At the end of each session, we had the students answer the questionnaire of freely-descriptive style. In the academic year of 2011, we had this session at the end of academic year, then we had a rerun session to the new students in the beginning of academic year of 2012. We analyzed all the answers of the students in each department, and found out that almost all the students have found these sessions meaningful in learning. In the analyses of answers at the end of academic year, we found that the students clearly realized their academic developments and were motivated to work harder in their sophomore year. In the analyses of answers of freshmen who listened to the sophomores' presentations in the beginning of their college life, we found that the freshmen understood their goals of learning in college, and got interested in their new major. The Committee of Liberal Arts Education of Niimi College will keep up the implementation of the interdepartmental reporting sessions of students' learning to better liberal arts education.

Keywords: the Department of Nursing, the Department of Early Childhood Education, the Department of Community Welfare, mutual learning among students, liberal arts education